



# 環境公共 通信

“地域づくりの新しいかたち” 環境公共



第4号 平成22年4月  
発行／環境公共推進会議事務局  
〒030-8570 青森市長島1-1-1  
青森県農林水産部農村整備課内  
TEL 017(734)9545 FAX 017(734)8153

## ■最近の話題

### ～弘前・十和田・八戸ジョイントフォーラムで 環境公共 を紹介～

3月17日に八戸市の八戸工業大学において、弘前・十和田・八戸ジョイントフォーラム(主催:あおもり県民政策ネットワーク)が開催されました。本フォーラムでは、「地域活性化のための資源循環、食の安全、環境保全の取り組み」をテーマに、地域資源である稲わらの有効活用に向けたこうちくれんけい耕畜連携や、資源循環の課題等に関する発表が行われました。県からは「青森県における「環境公共」の取組」として、ホタテ貝殻を利用した水質改善などを紹介しました。



フォーラムの様子

## ■特集 ～青森県における「環境公共」の取組事例③～

### 1 ホタテ貝殻を利用した水質改善への取組 (青森市しんじょうしたげき新城下堰地区)

青森市の西部にある新城地区では、近年の宅地開発に伴う混住化の進行により、地区内の農業用水路である新城下堰に家庭雑排水が流入し、水質の悪化が深刻となっていました。そこで、農業用水の水質改善を図るため、本水路を家庭雑排水用と農業用水用に分離しました。

さらに、分離された家庭雑排水の水質改善について検討した結果、せつしよくさんかほう接触酸化法※がより経済的で効果的であることが分かり、そ



新城下堰の様子



接触ろ材の設置

(左側：木炭 右側：ホタテ貝殻)

の接触ろ材※には、地場の資源であるホタテ貝殻と間伐材を利用した木炭を使用することとしました。

左の写真は、水質を浄化する水路の状況ですが、左側の水路には木炭を詰めたカゴを、右側の水路にはホタテ貝殻を詰めたカゴを設置し、水質改善の効果を比較しました。

その結果、双方とも水質汚濁の指標として使われるリンや窒素などの数値低下が見られ、ホタテ貝殻の水質改善効果が確認されました。

※ 接触酸化法、接触ろ材

接触酸化法とは、付着させた微生物により処理する方法で、微生物を付着させる資材のことを接触ろ材と言います。

## 2 地域力を活用した魚道整備とアドプト協定に基づく維持管理への取組

おいらせがわ  
(十和田市奥入瀬川地区)

十和田湖に端を発する奥入瀬川では、アユやヤマメ、サクラマスなどが自由に遡上できるように、本河川に設置されている5箇所<sup>とうしゅこう</sup>の頭首工に魚道の整備を計画的に行っています。整備に当たっては、農業関係者や漁業関係者、釣り愛好家、学識経験者など、地域力を結集した「奥入瀬川魚道整備検討委員会」を設置し、魚道の形式や構造、維持管理方法に関する検討を行っています。

平成20年度には、検討委員会の指導や助言を受け、本河川に設置されている頭首工のひとつである藤坂<sup>ふじさか</sup>頭首工<sup>とうしゅこう</sup>に魚道を整備しました。

これまでは、藤坂頭首工をはじめ、新たに整備された魚道の管理については、奥入瀬川南岸土地改良<sup>おいらせがわなんがんとちかいりょう</sup>区が行ってきました。しかし、土砂や流竹木を取り除くなど、魚道の機能を確保するための維持管理に大変な労力が費やされるため、検討委員会からの助言により、奥入瀬川で河川の清掃や美化活動を行っているボランティア団体「クリーン・グリーン奥入瀬川」が魚道の維持管理に参加することになりました。さらに、去る平成21年8月25日には、クリーン・グリーン奥入瀬川と奥入瀬川南岸土地改良区の間で藤坂頭首工の魚道の維持管理に関するアドプト協定<sup>\*</sup>



検討委員会の様子



魚道が整備された藤坂頭首工

が締結され、魚道の維持管理に向けた活動が始まりました。

なお、本取組は、去る平成22年2月19日に東京都港区の農業土木会館にて開催された全国優秀技術発表会（主催：農業農村工学会）において、県上北地域県民局地域農林水産部から「地域力を活用した魚道整備事業への取組」と題して紹介しています。



※ アドプト協定とは

「アドプト」とは、「養子縁組」のことを言い、市民団体などが「親」になり、対象となる施設をファミリー（家族の一員）とみなして清掃活動や美化活動を行います。

「環境公共」ホームページ：<http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kankyokoukyou.html>